

「チャイルドラインうえだ」の活動について



チャイルドラインうえだ
運営委員会

運営委員 池上喜美子様

事務局次長 茅野 浩恵様

チャイルドラインは、
18歳までの子どもたち
の話を聴くことを目的に

25年前から始まり、41都道府県70団体が交代で毎日16時から21時まで活動中です。チャイルドラインうえだは2006年から電話受付を開始し、今年度で20年目になります。

子どもたちからは、フリーダイヤルの電話・チャット・HP上の「つぶやく」への書き込みという3つの方法で様々な気持ちや悩みや話が寄せられています。

昨年度は、全国で、電話では16万4千件の着信があり、チャットでは16万9千件の訪問件数がありました。「つぶやく」欄には2万件の書き込みがありました。

電話の着信率は52.6%でした。つまり子どもたちが発信した電話の半分以上が受けられない状態ということです。毎年受け手養成講座を開講していますが、受け手の更なる充実が課題となっています。

私たちはどんな話でもまず受け止めて、気持ちを整理し、解決するための一歩を踏み出せるように寄り添います。指導やお説教はしません。子どもはおとなと同等の権利を持っていて対等な存在だとする子ども観を大切にしているからです。

これは、子どもの権利条約第3条の「子どもの最善の利益」を基本にしています。おとなから見れば好き勝手なことを言っているように思えることでも、まず言い分を聴き、「どう感じているのか」「どうしたいと思っているのか」を受け止めます。

そして一緒に考えて絡まっていた思いを言語化して整理するお手伝いをする立場になります。

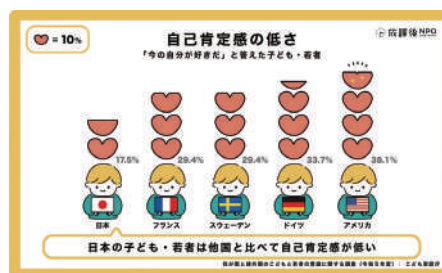
毎年、全県の子どもたちに、チャイルドライ

ンの番号カードを配っています。今年は、夏休み明け前後の子どもたちの気持ちをより多く受け止められる様に、8/22から9/4の間、夏の全国キャンペーンとして、15時から22時に時間延長して実施いたします。そこで夏休み前に子どもたちの手元に届くよう協賛社名を記載したカードを手配しました。

チャイルドラインには大きく二つの役目があります。1つ目は今述べた通り、子どもたちの話を聴き『心の居場所』として寄り添うことです。

もう1つは、子どもたちの現状を身近な大人の方たちに知ってもらうための活動をする事です。

全国の小中高生の自殺者数は2024年過去最高の529人でした。10歳以上の子どもの死因の第1位が自殺という現状を皆様ご存じでしょうか。また、ユニセフレポートによると、日本の子どもの「精神的幸福度」は38か国中32位となっています。また、日本の子どもたちの自己肯定感は低いという調査結果もあります。



こういった子どもたちが置かれている現状を一番子どもたちに近い大人の方たち、つまり親世代の方たちに

知っていただきたいと思っています。

今回、貴ロータリークラブ様の例会に出席させていただき、よい機会をいただきましたこと感謝申し上げます。ぜひ、皆様の会社や団体で行う研修会等で、子どもたちの現状をお話しさせていただき、より身近な子どもたちへ気持ちを寄せて一緒に考える機会をいただければ嬉しく思います。

未来を担う子どもたちを社会全体で支える活動と子どもたちの現状に関心を寄せていただき、更なるご支援のほどよろしくお願いいたします。



- 司 会 中嶋大介君
- 齊 唱 「四つのテスト」
- ゲ ス ト 池上喜美子様(チャイルドラインうえだ運営委員)
茅野 浩恵様(チャイルドラインうえだ事務局次長)
- ラッキー賞 久保友幸君(季節のアレンジ花)
池上喜美子様(水出君より北海道のお土産のチーズケーキ)
水出「トムとジェリーに出てくるチーズのような形のケーキです。」
茅野浩恵さん(柳澤誠君より大阪のお土産)
柳澤誠「仕事で大阪に書類を一枚だけ受け取りに行きました。」
西森勇太君(中嶋君より香川のお土産)
中嶋「先週と先々週3日ずつ香川に行きました。うどんとしょう豆です。」
依田育也君(蓑輪君より高岡市不破福寿堂のお菓子)
蓑輪「友好クラブ高岡西RC元会長さんのお店です。」



■会長挨拶



山寺 高太郎 会長



「上田の初等教育」

明治5(1872)年8月3日、明治新政府により学制が公布されました。これは全国を8大区に分け、1大区を32中区、1中区を210小区にし、全国に53000余の小学校と256校の中学校を作るという壮大な計画でした。

上田地域は、第6大区(本部新潟)第16中学区(本部上田)に属していました。理想は、まず各地にすべての小学校を設立し、かつ女子も男子と同様に教育を受けることにありました。明治6(1873)年には、一番小学校の松平学校、二番小学校の上田街学校、さらに塩田別所地域に日就・別所・昇高・盈進学校、殿城に愛日学校、神科学校等々、上田地域全域に18校が開校しました。

当時の小学校の学費は、今の米価換算で、月額平均約5,000円であり、かつ子供でも貴重な働き手としての存在でしたが、その就学率は、全国平均28%であったにもかかわらず79.1%という驚異的な高さでした。教育に未来の夢や希望を抱いた当時の地域の人々の熱意が感じられます。そして、明治33(1900)年に小学校令により義務教育としての無償化が実現し、それが今に続いています。もし、皆さんのお家に当時の小学校や中学校の修了証書や卒業証書が出てきたら、ご先祖様たちがいかに努力し、教育に取り組んだかの証であり、今、我々が当たり前に受けている教育は彼らの努力の賜物でしょう。

明治11(1878)年5月に上田市鍛冶町月窓寺において

現上田高校が創設され、当時は上田変則中学校と呼ばれ教員養成の為に師範学校と上級学校を希望する者の中学校を合わせた学問と文化の向上を目指す学舎であり、上田市の近代上級教育発祥の地でもあります。当時上田町(市)に近代教育の教員養成校や上級学校もなく、本陽寺に第2番小学校の上田街学校(後に中央校となりその後北小学校となる)と大手町の第一番小学校松平学校しかなかった為、向学心に燃えた小学校卒業生達も合わせて長野県令に陳情し開校されました。当時の学生にガン発見者の医学博士山際勝三郎、近代福祉事業の創始者(民生委員制度の創始者)小河滋二郎、第二代上田市長勝保栄吉郎などがいます。当時の熱い思いが今に伝わっているかを考えても良い時期かなと思っています。かつての姿と今のさびれかたを比べると、昔から行政にうまく使われた町なんだなと一瞬思ってしまう。

■幹事報告(7月30日)

倉島 博 幹事



・上田市より『平和の灯(ともしび)モニュメント』除幕式のご案内が届く。

日時 8月8日(金) 午後4時～

会場 上田市役所本庁舎駐車場

・高岡西RCよりクラブ計画書が届く。

(7月16日分)

- ・『小中高校講師派遣サイト』への講師登録依頼が届く。
- ・ガバナー補佐より2028-29 ガバナー候補者選出にむけた委員会開催のご案内が届く。2名の委員を出す。
- ・上田六文銭RCよりクラブ計画書が届く。

■出席報告

	正会員数	ベース	欠席	メイク	出席率
本 日	52	49	19	—	61.22%
前々回	52	48	16	12	91.67%

ニコニコBOX (敬称略)

飯島(洋)、石井、上原、工藤、久保、倉島、小林
塩之入、関、滝澤(修)、田守、塚田、手塚(た)、手塚(達)
中嶋、西森、松山、蓑輪、宮澤、母袋(創)、母袋(卓)
柳澤亨、柳澤誠、山寺、渡辺

※工藤 恒君/チャイルドラインうえだ池上様、茅野様
ようこそお越しくださいました。

※松山賢太郎君/池上姉さん、宜しくお願いします。

※渡辺敏成君/本日のお話、楽しみにしております。

※柳澤 誠君/大きな地震と津波で、被害が無いことを祈るばかりです。

※飯島洋一君/本当に暑いですね!! 体力的に限界です。

※母袋卓郎君/北海道40℃!? どうなってしまったの?

※手塚達也君/レモンサワー、美味しくいただきました。

※母袋創一君/宝くじ、当たりますように!

本日の金額/27,000円 累計/165,000円